



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	The effect of the paradox mindset on individual unlearning and work engagement : A mixed study [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Yin, Jun
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第14921号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85795
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	YIN_Jun_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）

氏名 尹 クン

審査委員	主 査 准教授	阿部 智和
	副 査 准教授	宇田 忠司
	副 査 教授	松尾 睦

学位論文題名

The effect of the paradox mindset on individual unlearning and work engagement: A mixed study

環境の変化が激しい現在、古い信念やルーティンを新しいものに入れ替える「アンラーニング (unlearning)」は、組織が環境に適応する上で、また、チームや個人が生き残る上で重要なテーマである。しかし、これまでの研究が組織やチーム・レベルのアンラーニングに焦点を当ててきたのに対し、個人レベルのアンラーニング・プロセスは十分に検討されていない。こうした問題を踏まえ、本論文は、緊張や葛藤を機会としてとらえて解決策を探求する「パラドックス・マインドセット (paradox mindset)」が、個人のアンラーニングや「ワーク・エンゲージメント (work engagement)」に与える影響を、量的・質的に検討することを目的としている。

本論文は6章から構成されている。第1章では、研究の背景、研究上の問い、研究目的が述べられている。

第2章では、アンラーニングおよびパラドックス・マインドセットの先行研究をレビューすることで、研究全体のリサーチ・クエスチョンと定量的研究における仮説モデルが提示されている。具体的には、アンラーニングとパラドックス・マインドセットの概念に関する研究と実証研究を検討した上で、「パラドックス・マインドセットは、個人のアンラーニングおよびワーク・エンゲージメントにどのような影響を与えるのか」というリサーチ・クエスチョンが提示されている。その上で、パラドックス・マインドセットが、ジョブ・クラフティングの一種である「挑戦的課題の追求 (seeking challenges)」を媒介して、個人のアンラーニングおよびワーク・エンゲージメントに与えるモデルが提示されている。

第3章は、研究方法が説明されている。すなわち、本論文では定量的研究と定性的研究を組み合わせた混合法 (mixed study) を用いていることと、それぞれの調査手続きやデータ分析の方法が示されている。定量分析では、中国における研究関連企業の従業員120名、教育関連組織の従業員238名、合計358名を対象とした質問紙調査データを、共分散構造分析によって検討したことが述べられている。定性分析では、研究関連企業および教育関連組織

の従業員 18 名を対象としたインタビュー調査が実施され、調査データはグラウンデッド・セオリー・アプローチによって分析されたことが述べられている。

第 4 章は、定量分析の結果を記述している。具体的には、①パラドックス・マインドセットは、直接的に、また挑戦的課題の追求を媒介して間接的に個人のアンラーニングを促進すること、また、②パラドックス・マインドセットは、直接的に、また個人のアンラーニングを媒介して間接的にワーク・エンゲージメントを高めることが明らかにされている。

第 5 章は、前章の分析結果をさらに検討することを目的としている。具体的には、パラドックス・マインドセットが、どのように挑戦的課題の探求や個人のアンラーニングを促進しているかについて、詳細なプロセスを明らかにすることに取り組んでいる。分析の結果、パラドックス・マインドセットは、「緊張のマネジメント (managing tensions)」および「内省的思考 (reflective thinking)」を通して、挑戦的課題の探求や個人のアンラーニングを促進することが報告されている。

第 6 章では、定量分析および定性分析によって明らかとなった発見事実、理論的・実践的含意、今後の研究課題が議論されている。

審査の結果、本論文の主たる貢献は次の 2 点という合意が得られた。第 1 に、これまで十分に検討されてこなかった個人のアンラーニングのメカニズムを、パラドックス・マインドセット、挑戦的課題の追求、ワーク・エンゲージメントの観点から、量的に明らかにした点である。第 2 に、パラドックス・マインドセットが持つ情緒的・認知的な効果を質的に特定した点である。これらの発見は、実証研究が不足していた個人のアンラーニング研究に大きく貢献するものであると考えられる。

ただし本論文は、以下の 2 つの課題が残されている。定量分析と定性分析から導出された結果を接合する際、類似する変数間の共通項や相違項を理論的に検討し、より適切な統合を図る必要がある。また、個人のアンラーニングに影響を及ぼす、情緒的・認知的変数のさらなる検討が求められる。

しかし、上記の問題は定量分析と定性分析を組み合わせる混合法において生じやすい問題であり、情緒的・認知的変数の検討は今後の研究課題として位置付けられる。したがって、個人アンラーニングのメカニズムをユニークな視点から検討した本論文の成果は高く評価されるべきであると考えられる。

以上の点を踏まえ、本論文は、学術研究として高い水準に達しており、審査員全員一致で、博士（経営学）の学位を授与するに値すると判断した。